

チェコスロバキアのテレジンには、ナチス政権時代にユダヤ人の強制収容所がありました。この収容所の中でフリードル・ディッカー先生は、子どもたちに絵を描くことを通して生きる喜びを教えました。

小学校の国語の教科書にも収められているこの逸話から教育の本質を一緒に考えましょう。

ーフリードル・ディッカー先生が
「絵の教室」を通してもたらしたものー

テレジン収容所の子どもたち

講師：Linney Wix（リニー・ウィックス）

ニューメキシコ大学美術教育名誉教授
全米アートセラピー協会公認アートセラピスト
1985年からアートセラピストおよびスーパーバイザーとして医療・教育現場などで実践を行なう。

日時：2019年8月4日（日） 9時30分～12時30分（9時開場）

場所：奈良教育大学 山田ホール（定員60名）

対象：学校教育関係者・臨床心理士・公認心理師（スクールカウンセラー等）

参加費：無料

福祉関係の方・学生・一般・ESDに関心のある方など

* 講演は通訳が付きまます。



米国の美術教育者であるDr.ウィックスは、収容所の過酷な状況の中で、生き抜く子どもたちに対して、フリードル先生が美術教育を通してどのように生きる力を醸成し、レジリエンス（回復力）を高めたのかについて調査研究を行いました。

講演では、Dr.ウィックスの調査研究についてお話しいただくとともに、実際にテレジンでフリードル先生が行っていた簡単な創作活動を参加者に体験していただきます。



テレジン収容所
子どもたちの作品

参加申し込み

- 下のQRコードから参加申し込み画面を出して内容を入力し、お申込み下さい。
奈良教育大学HP（イベント情報）の画面からでも入力画面にアクセスできます（6月中旬以降）
〈先着順〉定員に満たない場合のみ、当日参加も受け付けます。（7月末予約締め切り）

お問い合わせ

市来研究室: ichiki@nara-edu.ac.jp

